

2019年12月7日

熱気球ふれあい事業実行委員会 御中

前略

毎回、子供が熱気球のイベントを楽しみにしております。

なかなか参加できず、年に1度ほどのペースでお世話になっております。

お世話になっている立場なのですが、今回、どうしてもこのモヤモヤをお伝えしたく、筆をとりました。

今回（12月7日開催）親子2人の参加でしたが、ボランティアはお断りしました。

前回参加したときは、19歳の福祉系短大に通う学生さん、前々回の時は中学生の女の子が、ボランティアとして付きました。

しかし、その2回の経験から今回はお断りしたわけです。

私たちについてくれたお子さんたちは、主に子供の手を引いてくれようとしてきましたが、自閉症の私たちの子にとって、それは得意なことではありません。親の手でさえ振り払ってしまうのです。そのほかに、特に依頼すべきこともなく、お二人の他愛のない学校生活や趣味の話を、聞き続けました。それは、帰宅時まで続きました。

個人的には、このイベントに参加するにあたって技術援助も労力提供も必要としていません。

そもそも、ボランティアとしてその任に当たっている子たちは、自分たちがすべきことについて理解しているのでしょうか。

ボランティアのお子さんに気を使い、屋台では奢り、さらに自分たちの子供を見る...

ボランティアって私たち保護者のことですか？

今回、気球に乗る列に並ぶ私たち親子の前に、一昨年の私たちのように、一生懸命ボランティアの中学生と話しているご夫婦がいました。

それぞれの腕に、障害のあるお子さんを抱っこされ、荷物を持ち、世話をしながら、2.5次元かぁ、わかんないけどいろいろ知ってるんだねえ、などと忙しく会話されていました。今日はとても寒く、子供たちは涙を垂らしていました。ご夫婦の手はふさがっており、ポケットのティッシュを取るのも苦労されていました。それをしり目に2.5次元の舞台の話は続きます。

なんだか、とても腹が立ちました。

一般的な会場では奇異な目で見られたり、本人の負担も大きかったり、そんなことが障害を持つ当事者やその家族同士であれば、軽減されるだろう、理解がベースとしてあるわけだから、というのが、当初私たちが参加したきっかけでした。

ふれあい、とは、社会的な意味合いかと思っていました。

もし、参加する障害者とその家族の役割が、無知な学生さんたちと関わることなのであるならば、そういう趣旨であると明示していただきたいです。

ボランティアという役割は何なのか。

もう一度、考えてみてください。

せめて、会場を案内できたり、このイベントに関わる施設やグループがどういう活動をしているのか説明できるようにしてください。

社会的障壁以前に、無知は負担です。

ただただついて歩くのでは、ボランティアとは言いません。

何日か、出していいものか、迷いました。

やはり、送る事にしました。

いただいたお便りへの返信として

この事業を始めた当初は社会人と大学生ボランティアでの運営でした。内容が多岐にわたるにつれ人手不足となり、高校生のボランティアを募集することになりました。

当初は高校生ボランティアも迷いながらの募集でした。

原付バイクで会場に乗り付けてくるような男の子達も居ましたが、いざ子供達と接すると、一生懸命で楽しそうに遊んでいる姿が見られました。

勿論、個人差はあり、どうして良いか分らず尻込みしている子や、いつの間にか自分の好きなことをしている子と、様々ではあります。

しかし「疲れた～、でも楽しかった！」と素直な感想を聞き、高校生ボランティアの可能性を感じて募集を続けることにしました。

高校生ボランティアの想像以上の活躍に、中学生へも範囲を広げてきました。さすがに中学生はなかなか思うような活躍とはいきませんが、子供達と楽しそうに遊ぶ姿が見られ、ボランティア依頼が可能と判断しました。

ボランティアについては初めて参加する中学生には事前説明会の参加を義務づけ、他の初めての方にもできる限り説明会参加をお願いしています。

事前説明会では自閉症についての講義も受けてもらっていますが、半日の説明会で理解できることは限られています。

ボランティア活動とは何かとなれば、経験を積むことで理解していくしかないのかもしれないかもしれません。

家族付添のボランティアの人達は、家族サポートが第一の努めです。それに加えて障がい者に触れる機会をつくることで、少しでも障がい者を理解する機会になればという目的もあります。それは家族の方々がこれまで努力し、社会へアピールしてきたことでもあると思います。

中高生の頃の若いうちに、そのような経験をできれば、少なくとも参加したボランティア達は、日常で障がい者と出会っても奇異な目で見ることが少なくなるでしょう。

しかし、このイベントでボランティアとの交流を参加者へ強制できることでもありません。

確かに、どちらがボランティアか分からない状態になることもあります。

ボランティア各自の温度差を理解いただいた上で選択していただく必要があるのかもしれない。

それでも、ボランティアの皆さんもそれぞれ精一杯の努力をしてくれていることを理解いただければと思います。

これまで何度か交流を目的に一般の方の参加も検討したことがあります。

しかし参加家族の方々から、気兼ねなく参加出来るイベントとして続けて欲しいという声もあり、今のような開催を続けています。

これからも、皆さんに参加いただき、楽しい時間を過ごすことができる場作りをして行きたいと思います。

熱気球ふれあい事業実行委員会

1年に2回 子供と楽しく参加させて
いただいています。

子供も大きくなってきて、工作や遊びは
あまりやらなくなりましたが、自分の好きな
遊び、場所も見つけて楽しんでいる
ようです。

もう、7~8年前にボランティアに付いて
いただいて、それからずっと気にかけて
いただいた方が、今回で最後になりそうと
お聞きしました、お名前はわかりませんが、ホントの
方だと思えますか。この場をお借りして

お礼も申し上げたいと
思います。

「ありがとう
ございました！」



先日は、寒い中、色々な催しを
計画して下さりましてありがた
うございました。

我子は、ストラクアウト、車輪投げ
コンサートを楽しく参加していま
した。

今回は、寒かったので、コンサート
は、体育館を利用というの
も良かったと思、たりしました。
もう1つ、名小、たいに使ったマシ
ンが汚れてしま、たので、マシ
ンにしてくんと良かったと
思、いました。



とても楽しい時間をありがとう
ございました。

数年前に、2回参加させていただきましたが、
風や雪の影響で、気球に乗れず、今回
久しぶりに参加し、3度目にして乗ることが
できました。息子のニコニコした表情を見て、
私もうれしくなりました。ボランティアの
中2の男の子は、無口ながらも、写真も
とってくれたり、一緒に活動してくれて、
えらいな～と関心しました。ありがとう

ございました。

委員会の皆様、ボランティアの皆様
あ世話になりました。



先日は、とても寒い中、イベントお疲れ様でした。

気になった点について、お話しさせていただきたいと思います。私とともは、8:45頃会場に着いたのですが、その時熱気球の準備はされておらず(物が出ていなかった)不安に思い、1時間以上した時にあちこちのスタッフに話を聞いてもたかい回しにされている状態でした。最後に話したスタッフさんに「アウンスカカかと思いきや」と言われましたが結局かからず皆熱気球が上がったのを見て行動していたようでした。遠方から来られた方もいらっしゃるのもう少し、気を使っていたら良かったかと思われました。



先日は、長女と友人家族で参加
しました。はじめて乗る熱気球は
すごくうれしそうで、「もう一回乗りたい!」と
言うくらいです。子どもに、なかなか体験
することが出来ない事を皆様の
おかげで体験でき、感謝一杯です。

要望としては熱気球乗車までに
並ぶこと^{が大変だった}です。風の影響で難しいとは
思いすが、整理券の発行が早く



うれいです。スタッフさんの
笑顔もうれいです。ご準備
大変かと、思いすが、また宜しく
お願いいたします。



毎朝、集いおにしている事業です。

昨年、体育館の中へ行った。カロリーニングが

今年、ながにのが残念でした。できにら

またやらせていただきます。

今年はとても寒い日になりました。温かい

飲み物サービスがとてもありがたかったです。

ダンス、ルフラフトに参加しました。寒いので指が

動かなくなりました。そのため、長ポールフラフトは

体育館内の方がよいかと思います。

ボランティアさん、お世話になりました。ありがとうございました。



熱気球の体験は、利用者さんも大変
よるこんでいました。また、同業の方との
交流にもなり有意義な時間を過ごすことが
できました。工作等の体験も楽しく、
満足して帰ることが出来ました。
また次回も参加させていただきたいと
思いました。

アイラブとちぎ ドックセ話人



アシモ作らせて
いただきました。

